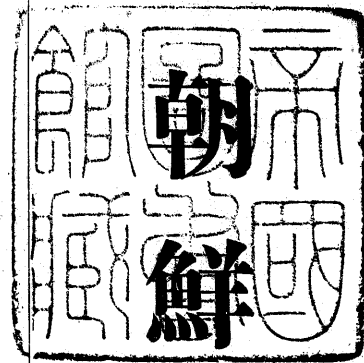


1999.

明治三十二年二月刊行



水路誌 第二版



水路部

21Q-14

朝鮮水路誌序

本誌ハ韓國ノ全部沿岸ヲ記スルモノニシテ乃チ西岸鴨綠江ヨリ起リ南岸ヲ經テ東岸豆滿江ニ終ルモノトス其編纂ノ重ナル緣起ハ左ノ如シ

第一編朝鮮沿岸ノ總記ハ我海軍圖誌在韓領事ノ報告及一八九四年英國水路部刊行支那海水路誌第四卷ニ據ル

第二編朝鮮西岸ハ明治二十二年磐城艦長海軍少佐高木英次郎海軍大尉三浦重郷明治廿七年海軍少佐加藤重成ノ實驗記事ヨリ取ル

第三編朝鮮南西岸南岸及南東岸ハ明治廿七年海軍少佐加藤重成同廿九年海軍大尉上村經吉海軍大尉荒尾富三郎等同廿六年軍艦高雄航海長海軍大尉野間口兼雄等ノ實驗記事ヨリ取ル

第四編朝鮮東岸ハ明治十三年海軍少尉三浦重郷同廿九年軍艦高雄同年筑波航海長海軍大尉荒尾富三郎等及明治三十一年宮岡鳥海艦長ノ實驗記事ヨリ取ル

其他軍艦海門鳥海摩耶愛宕等ノ報告及一八九四年英國水路部刊行支那海水路誌第四卷ニ據リ且明治卅一年十一月迄ノ内外諸報道告示等ニ據リ之ヲ補フ
本書ハ前版ニ比スレハ頗新且精ナルヲ信スト雖朝鮮沿岸殊ニ東岸ハ略測及未測ノ地尙甚多キヲ以テ今後此書ヲ用フル者ハ實況ト比較シ正スヘキハ之ヲ正シ補スヘキハ之ヲ補シ精確ノ實驗ヲ舉ケテ本部ニ報道アラシムコトヲ希望ス

明治三十二年

水路部長 肝付 兼行

用語例

- 一 方位ハ都テ磁針ニ取ル眞方位ヲ用ユルモハ眞方位ト書ス
- 一 風ノ方位ハ其來ル所ノ方向ヲ指シ海流潮流ハ往ク所ノ方向ヲ指ス
- 一 方向ニ偏ノ字ヲ冠スルモノハ其方向ノ左右各二點以內ニ當ルモノヲ汎稱ス假令ハ北ヲ中心トシ北々西ト北々東ノ間ノ風ヲ偏北風ト謂フカ如シ
- 一 方位中微ト書スヘキヲイト書シ何方位ヨリ何方位ニ至ルヲ何方位至何方位ト書スルハ繁文ヲ省クカ爲メナリ例セハ北微東ヲ北々東ト書シ北々東ヨリ東北東ニ至ルヲ北々東至東北東ト書スルカ如シ
- 一 燈臺ノ方位ハ總テ海方ヨリ燈臺ニ向フテ取ルモノトス
- 一 河川ノ岸ノ左右ハ總テ河源ヨリ河口ニ向フテ稱スルモノトス
- 一 地名ノ朝鮮音ハ其右傍ニ附スト雖地名ノ索引ハ總テ我邦音ニ由ル
- 一 尺法ハ海圖ノ構成ニ英制ヲ用ユルカ故ニ對照ノ便ヲ計リ本書亦英制ニ從フ但吹及吋ノ字ヲ用非之ヲ區別ス

一 附屬ノ分數ハ^ノト書シ單立ノモノハ之ニ據ラス五里四分ノ三ヲ五^ノ里ト書シ^ノ呎ハ四分三呎ト書スルノ類ナリ

一 高低ハ呎。深淺ハ尋。又ハ呎。ニテ示シ距離ハ海陸俱ニ左ノ詞ヲ用ユ

里 (緯度一度ノ六十分ノ一ニシテ其平均數ヲ六千七十五呎半トス)

鏈 (里ノ十分ノ一)

間 (鏈ノ百分ノ一)

碼 (三呎)

陸上ノ距離ハ時トシテ左ノ詞ヲ用ユルコトアルヘシ

陸里 (一萬二千八百八十四呎)

哩 (五千二百八十呎 即チ英ノスタチユート里ニシテ鐵道等ニ用ユ)

一 數量ハ繁文ヲ省ク爲メ略記號ヲ用ユル所アルヘシ

但單用ノ十二、二十三、三十四、四十五、五十六、六十七、七十八、八十九ハ

除外例トス

用例左ノ如シ

北緯三三度四五分五六秒 (北緯三十三度四十五分五十六秒)

晴雨計二九吋二五 (二十九吋二五)

磁針方位北四五度三四分西 (北四十五度三十四分西)

一 寒暖計ハ華氏ノ法ニ從フテ書ス

一 地貌、暗礁、目標等ニ關シ從來東洋ニ於テ用ユル語ハ其區別判然セス從ツテ近時航海上ノ術語ナル暗岩、破浪岩、沙堆、門洲、淺灘、點灘、礁脉等ノ名稱ノ如ク其名ニ依テ直ニ其形ヲ知ルニ由ナシ故ニ本書ハ特別ノ慣稱ヲ除クノ外多クハ此術語ヲ用井テ之ヲ説明セリ因テ便宜ノ爲メ其概定ノ術語ニ關スル和英對譯ヲ左ニ掲ク

偏北	Northerly	他ノ方位モ之ニ準ス
北方	Northward	洋
以北	North of	海
		Ocean or sea
		Sea

用語例

營造尺 一尺一分

家屋船舶ノ製造及金屬ヲ量ルニ用ユ

布帛尺 一尺六寸一分

官用ニシテ木綿布絹等ニ用ユ

田量尺 三尺三寸一分

田畑ノ測量ニ用ユ

一步 周尺 六尺 三尺八寸五分二厘

一里 三百六十步 三丁五十一間七寸二分

朝鮮水路誌

總目錄

第一編

總記

形勢 一頁

貿易 四頁

霧 六頁

日本海流 一〇頁

第二編

朝鮮西岸

鴨綠江 一五頁

鎮南浦 二四頁

ルーパー 四四頁

產物 三頁

氣候 五頁

風 七頁

潮 一二頁

大同江 一七頁

大東灣 三四頁

延平列島 四六頁

漢江 四八頁

皇子叢島 六二頁

牙山錨地 九一頁

隔音群島 一〇四頁

木浦 一二〇頁

大黑山群島 一二三頁

鹽河 五三頁

濟物浦錨地 八二頁

淺水海灣 九六頁

羅州群島 一一三頁

鳴洋渡 一二二頁

第三編

朝鮮南西岸 一二九頁

水路群島 一二九頁

グン水道 一四二頁

ベート群島 一四九頁

朝鮮南岸 一六〇頁

所安群島 一六〇頁

マルレイ浦 一三五頁

馬路海 一四三頁

濟州島 一五三頁

白日港 一六五頁

莞島 一六六頁

損竹列島 一七九頁

ピール群島 一八七頁

朝鮮南東岸 一九二頁

越渚坪洋 一九三頁

金鰲列島 一九五頁

麗水海灣 二〇八頁

南海島 二二〇頁

蛇梁島 二二五頁

長江水道 二三〇頁

加背梁灣 二二三頁

知世浦 二二八頁

熊川灣 二三五頁

長直路 一六八頁

巨文島 一八二頁

望高角 一八七頁

突山錨地 一九四頁

欲知島 一九八頁

麗水港 二〇九頁

晋州灣 二一三頁

統營海灣 二一九頁

竹林浦 二二二頁

多太浦(古多太港) 二二五頁

加德水道 二二三頁

釜島水道 二三五頁

此水道ハ對馬島ノ南角ト朝鮮ノ鴻島ワセキ(センチ子ル島)トノ間ニシテ其濶サ三十四里而シテ對馬島ノ北角ト釜山港トノ間ハ二十五里ナリ其最深處ハ對馬ノ西岸近傍ニシテ九十尋ナリ英艦「ダーヴ」ハ一八六一年ニ於テ北緯三三度東經一二七度三五分ノ地ニ於テ廿八尋(細沙底)ヲ得又同位置ノ南々西五里ノ處ニ於テ六十九尋北々東五里ノ處ニ於テ七十八尋ヲ得タリト云フ

東水道

此水道ハ對馬島ノ南角ト壹岐島トノ間ニシテ其最狹部ノ濶サ約廿五里其最深處ヲ大約六十五尋トス

第四編

朝鮮東岸 自釜山港外至豆滿江

磁針偏差 明治廿八年 五度一五分西乃至五度五〇分西

朝鮮東岸及諸島 海圖第五四號第二號第九五號ヲ見ヨ

朝鮮東岸ハ洋紀一八五四年露國「フレガット」形艦「パラス」カ黑埼ヨリ北緯四二度三一分東經一三一一度一〇分ノ地ニ至ルマテ長サ大約六百里間ノ航走測量ヲ施シ次テ同五十五年佛國「フレガット」形艦「ヴァージニー」之ヲ測量シ明治十五年我軍艦天城モ亦此地ニ航シテ釜山港ト朝鮮灣トノ間ヲ數回往復シテ實驗スル所アリシモ皆畧測ニ過キス

朝鮮東岸ハ其狀西岸ト異ニシテ海濱ヲ距ルコト遠カラスシテ海底深ク且陸界ナリ海濱ハ其地質ノ俄ニ變スル處アリト雖大略一樣ナル景狀ヲ成ス乃チ山岳岩石ノ地アリテ後平低多沙ノ濱トナリ次テ又山岳岩石多キ濱トナル島嶼岩石ノ如キモ之ヲ西岸及南岸ニ比スレハ甚少ナク其中大ナルモノハ一

ノ鬱陵島アルノミ其他ノ島嶼ハ總テ小ニシテ海岸附近ニ散布シ絶エテ一群ヲ成スモノアラヌ

警戒

釜山ト豆滿江トノ間ナル海岸ハ概子精測ヲ經サルカ故ニ之ニ沿航スル時ハ餘程注意シテ海圖ヲ用非サルヘカラス何トナレハ海圖上ニ於ケル釜山北方ノ海岸ハ實際ヨリモ五分乃至六分東方ニ脹出シ而シテ北緯三八度ノ處ハ實際ヨリ甚西方ニ偏退ストノ説アレハナリ

日本海

日本海ハ北々東至南々西ノ長サ約九百里東西ノ幅最濶ノ處六百里日本各島ヲ以テ東及南ノ海界トシ韓國及黑龍沿岸州ノ海岸ヲ以テ西及北西ノ海界トス故ニ四面皆陸ヲ以テ圍繞セラル而シテ南ニ朝鮮海峽アリ以テ支那東海ニ通シ東ニ津輕海峽アリ以テ太平洋ニ通シ北東ニ宗谷海峽及韃靼海灣アリ以テ阿留哥德斯科海及黑龍江ニ通ス○左ニ記載スルモノヲ除ク外日本海中絶エ

リアンコールト列岩

此列岩ハ洋紀一八四九年佛國船「リアンコールト」初テ之ヲ發見シ稱呼ヲ其船名ニ取ル其後一八五四年露國「フレガット」形艦「バラス」ハ此列岩ヲメナライ及ヲリヴツア列岩ト名ツケ一八五五年英艦「ホル子ット」ハ此列岩ヲ探檢シテホル子ット列島ト名ツケリ該艦長フォルシスノ言ニ據レハ此列岩ハ北緯三七度一四分東經一三一度五五分ノ處ニ位スル二座ノ不毛岩嶼ニシテ鳥糞常ニ嶼上ニ堆積シ嶼色爲メニ白シ而シテ北西ノ西至南東ノ長サ約一里二嶼ノ間距離約二鍾半ニシテ見タル所一礁脉アリテ之ヲ連結ス○西嶼ハ海面上高サ約四一〇呎ニシテ其形棒糖ノ如シ東嶼ハ較低クシテ平頂ナリ○此列岩附近ハ水頗深キカ如シト雖其位置ハ實ニ函館ニ向テ日本海ヲ航行スル船舶ノ直水道ニ當レルヲ以テ頗危険ナリトス

鬱陵島一名松島

海圖第二號第九五號ヲ見ヨ

隱岐島ヲ距ル北西^西約百四十里朝鮮東岸ヲ距ル約八十里ノ海中ニ孤立ス
全島嵯峨タル圓錐山ノ集合ニシテ樹木鬱然繁茂ス而シテ其中心北緯三七度三
〇分東經一三
三分五ニ高サ四〇〇〇呎ノ一峯アリ巍然天ニ聳ユ〇此島周廻十八里ニシテ
其形幾ト半圓ヲ成ス

鬱陵島ノ北東側ニ於テ竹嶼(ボーツスール)ヲ南々西^西約二^四里ニ望ムノ處
ニ一岩アリ其水深僅ニ二呎乃至三呎日耳曼一汽船ノ報告ニ據ル

島岸殊ニ東北兩岸ニ沿フテ數个ノ峻岩分立シ其高サ四〇〇呎乃至五〇〇呎
ニ達スルモノアリ何レモ鬱陵島ノ如ク陡界ニシテ錘測モ恃ミトスルニ足ラ
ス然レトモ竹嶼此嶼ハ島ノ東濱ヲ距
ル七鏈ノ處ニアリヲ除クノ外皆本島ノ崖岸ヲ距ル二鏈半以
上ニ出ルモノナシ〇島ノ北濱ニ接シテ孔岩アリ岩ヲ貫キテ一大孔アルヲ以
テ其形甚奇ナリ此岩ト相對セル陸岸ニ高サ大約八〇〇呎ノ滑面花崗石山ア
リ禿兀嶮峻ニシテ其形棒糖ノ如シ〇島ノ南端シール角附近ニ一小岩アリ
鬱陵島ノ各側ハ陡界ナリ曾テ英艦「アクテヤン」ノ端舟ハ島ヲ距ル南方四里

ノ處ヲ錘測シ四百尋ノ錘索ヲ投シ又島ノ北方二^四里ノ處ヲ錘測シ三百六十
六尋ノ錘索ヲ沉メタルモ皆底ニ達セス唯險崖ノ直下ニ於テ僅ニ水深ヲ得タ
リト云フ〇島岸險阻ニシテ攀ス可カラス唯天氣溫和ナル時ハ礫濱ヨリ辛フ
シテ岸ニ登ルヲ得ヘシ

春夏兩季ニハ朝鮮人此島ニ渡來シテ朝鮮形船ヲ造リ以テ之ヲ本地ニ送り亦
多量ノ介蟲ヲ拾集乾晒ス蓋シ朝鮮人ハ船ヲ製造スルニ鉄釘ヲ用ユルコトナ
ク皆木ヲ以テ之ヲ結合シ又乾材ヲ用ユルコトヲ知ラス必ス生木ヲ用ユト云
フ

ワイオダ岩

此岩ハ露國軍艦「ワイオダ」ノ發見セル一孤立岩ニシテ其概位ハ北緯四二度
一四分三〇秒東經一三七度一七分ニアリト云フ明治十九年佛國軍艦「ブリ
マウゲー」之ヲ檢索セシニ遂ニ之ヲ得サリシ又同年英國軍艦八艘ハ該岩ノ
アリト云ヘル位置近傍ヲ通過シ緯度四十里經度六十二里ノ間ヲ搜索シタル